

## 優秀賞

### 水という存在

私が八歳の時である。親の仕事の都合で中国に住んでいた。最初は慣れない環境で戸惑いがあったが、そこでの暮らしはとても楽しかった。近くには大きいショッピングモールもあり、生活において不便はほぼない。富山と比べれば、中国は大会である。田舎を好まない私にとって夢のようであった。

そんな生活も二年経ち、私はまた富山に帰ってきた。きときと空港から見える壮大な山々は、今まで何も感じなかったが、久しぶりに見ると、その姿に見とれてしまっていた。

ふと、空港内に視線を向ければ、「とやまのおいしい水」と書いてある場所があった。そこでは、外国人が美味しそうに紙コップの水を飲んでいいる。そこは、富山の水を飲んでもらうため、無料で水が飲めるようになっていいるのだ。

少し気になり、私はその水を飲んだ。その時、私は驚きで目が飛び出すそうだった。美味しすぎるのだ。変なくどみがなく、喉が透き通るかと思つた。

私が過ごしていた中国だと、ミネラルウォーターを使っていた。水道水は何が入っているかわからないとのことで、風呂以外はすべてミネラルウォーター頼りだ。それでミネラルウォーターを使うわけだが、毎日飲んでいたいと思うほどでもない。

だがこの水はどうであろうか。さらさらと喉を通る柔らかさ、スツキリとした舌ざわりは初めてだ。

ミネラルウォーターより美味いと感じる富山の水。その根源は、あの時私を見とれさせた、北アルプス・立山連峰にある。

立山連峰は降雪が多く、冬が終われば清やかな雪解け水となる。そのため、季節問わず冷たい清冽な水が流れ出るのだそう。納得がいった。あの時は真夏の蒸し暑い日であったが、キンキンに冷えていた

黒部市立清明中学校 二年 車谷 穂香

ことを憶えている。

もつと水を調べるため、家に帰ればまず風呂を調べた。中国生活での不便はほぼないと書いたが、唯一の悩みは水に関してである。その中でも風呂はトラウマ級だ。

風呂で使っていた時、急に水が出なくなった。今まさに入ろうとした直後だ。度々そのようなことが起こり、我が家は困り果てたもの。ある時は温水ではなく冷水がずっと出てくる。またある時は変色して出てきたこともあった。

今思えば、日本とは恵まれた土地である。水は美味しい、自然も豊かだ。富山は半分以上の土地が森林であり、森が水を浄化していく。そして常願寺川が源流から河口の間を汚さず流していく。常願寺川は、信濃川の六分の一の長さ。しかし、外国の大河川と比較できないほど急流で、途中汚染される間もないのだそう。そのため、水は常にきれいに保たれている。富山は、自然の力によって美しい水を生み出している。

あの時私が立山連峰の姿に見とれてしまったのは、中国では得られなかった水の美しさ、大切さに気づいたからかもしれない。森、川、天候……。様々な自然の力で、私たちはこうしておいしい水を飲めることができる。

水があることは当たり前のことと思つている人は多いと思う。だが、水は当たり前にあるものではない。自然が水を作り、自然が水をきれいにしているのだ。その過程は簡単ではない。それを、これからも理解していこうと思う。